



ろうさいだより



私たちは、信頼される・優しい・安全な医療を実践し、
地域と勤労者の皆様の健康を守ります。

「信頼・優しさ・安全」



南から見た新病院、上階からは、四方の山や海、市街地などの美しい風景を見ることができます

年が明け、令和 6 年になりました。皆さまには、穏やかな良いお正月をお過ごしになったこととお慶び申し上げます。

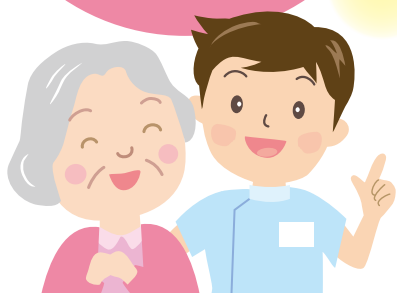
本院は昭和 38（1963）年 6 月に 7 診療科、200 床で開院しました。最初の頃は文字通り労働災害による傷病者の診療が中心でした。その後、周辺の宅地化に伴い市民病院的色合いが増し、さらには産婦人科と小児科の開設により、現在では 24 診療科、363 床の地域の皆さんにとって身近な総合病院へと発展してまいりました。

本院は、昨年、令和 5（2023）年に開院 60 周年を迎えました。この節目の年に新病院が完成しました。完成した新病院（写真）は東西 108 メートル、南北 41 メートルの 6 階建て、延べ床面積 2 万平方メートルで、3 階から 6 階の東西に 1 病棟ずつ、8 病棟を設け、療養環境改善のため病室やデイルームを広くするとともに、早期から運動療法を実施するため各階にリハビリテーション室を設置しました。

これまで分散していた病棟や外来などを一つの建物にまとめましたので、院内の移動距離が短くなり、快適性も向上したため、皆さんに喜んでいただけるものと願っております。

本院は理念として、「信頼される・優しい・安全な医療を実践し、地域と勤労者の皆さまの健康を守ります」と謳っています。60 周年と新病院完成を機に改めて職員一同この理念を胸に刻み、一層の優しい丁寧な医療を実践し、地域の人々の健康福祉の向上に貢献することをお誓いいたします。

脳神経内科 常勤医師 3名体制で 診療



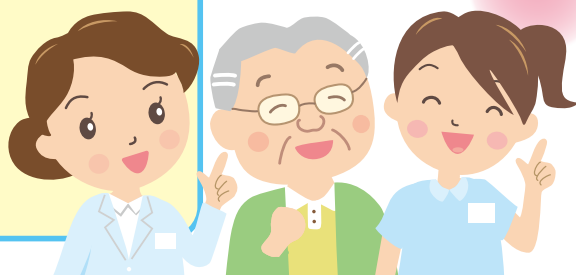
脳神経内科とは？

脳神経内科とは脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。体を動かしたり、感じたりすることや、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなった時にこのような病気を疑います。症状としてはしびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、勝手に手足や体が動いてしまう、意識障害などです。病名としてなら、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、脳血管障害、多発性硬化症、さらには片頭痛、てんかんなどが挙げられます。これら神経系の疾患が疑われれば、脳神経内科までご紹介いただければと思います。

主な取扱い疾患

・頭痛・てんかん・髄膜炎、脳炎・多発性硬化症・重症筋無力症・筋萎縮性側索硬化症・脳血管障害（脳梗塞、一過性脳虚血発作など）・パーキンソン症候群（パーキンソン病、正常圧水頭症、進行性核上性麻痺など）・認知症（アルツハイマー型認知症、レヴィ小体型認知症、脳血管性認知症など）

※ジストニア、片側顔面けいれんに対するボトックス治療も行っております。神経難病患者の在宅療養等もサポートしています。



脳梗塞超急性期の治療においては、血栓溶解療法、脳血管内治療などの選択肢があり、脳神経外科との連携が不可欠です。また速やかなリハビリテーションの開始が機能予後を大きく左右するため、リハビリテーション科との連携も必須となります。このように多部門にわたる医療連携が重要であり、医療の役割分担を充実させるため、地域との連携をより一層進めたいと考えています。

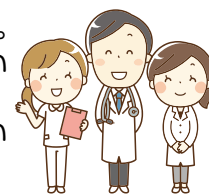
高齢化社会に突入した現在、地域支援病院として脳卒中を中心に診療連携を強化し、地域医療の一端を今後も担っていきたいと思います。

脳神経内科部長 楠見 公義

令和5年度 病病・病診連携サービス実態調査の報告

本院は患者さんと地域の先生方から満足していただける病院を目指し、医療の質向上に努めております。このたび患者さんをご紹介していただいた地域の先生方に当院の医療や病病・病診連携システム等について評価していただきました。

お忙しい中、ご協力いただきました地域の先生方に感謝申し上げます。また、心温まるメッセージをいただき、ありがとうございました。



項 目	令和4年度 (160件中81件回答)①			令和5年度 (170件中71件回答)②			②－①		
当院の病診連携システムについて	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
全体システムのわかりやすさ	88.3	76.1	△ 12.2	85.5	65.6	△ 19.9	△ 2.8	△ 10.5	△ 7.7
紹介のしやすさ	96.2	84.8	△ 11.3	97.1	76.2	△ 20.9	0.9	△ 8.7	△ 9.6
受付窓口の対応について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
担当者の対応・言葉遣い等	75.0	71.6	△ 3.4	79.7	77.4	△ 2.3	4.7	5.8	1.1
対応の迅速度	93.5	77.6	△ 15.9	94.2	73.0	△ 21.2	0.7	△ 4.6	△ 5.3
当院の医療情報提供について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
設置されている医療機器の情報	64.1	60.0	△ 4.1	69.6	70.2	0.6	5.5	10.2	4.7
標榜されている診療科についての情報	82.1	73.8	△ 8.2	76.8	68.3	△ 8.5	△ 5.2	△ 5.5	△ 0.3
医師の専門分野及び外来担当日	80.8	76.6	△ 4.2	84.1	72.1	△ 11.9	3.3	△ 4.4	△ 7.7
医師交代の状況	51.3	46.2	△ 5.1	52.2	49.2	△ 3.0	0.9	3.0	2.1
検査・画像診断の空き状況	44.7	44.1	△ 0.7	40.6	48.2	7.6	△ 4.2	4.1	8.3
空床の状況	53.9	42.6	△ 11.3	50.7	40.4	△ 10.4	△ 3.2	△ 2.3	0.9
治療水準の満足度について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
診断レベル	96.2	87.9	△ 8.3	95.5	90.3	△ 5.2	△ 0.6	2.4	3.1
治療レベル	97.4	89.4	△ 8.0	97.0	88.7	△ 8.3	△ 0.4	△ 0.7	△ 0.3
手術レベル	93.5	84.4	△ 9.1	97.0	87.1	△ 9.9	3.5	2.7	△ 0.8
検査レベル	94.8	86.4	△ 8.4	90.9	83.6	△ 7.3	△ 3.9	△ 2.8	1.1
撮影レベル	90.9	86.2	△ 4.8	90.9	86.7	△ 4.2	0.0	0.5	0.6
画像診断レベル	92.2	84.6	△ 7.6	90.9	85.0	△ 5.9	△ 1.3	0.4	1.7
リハビリテーションレベル	66.7	71.2	△ 4.5	71.2	67.9	△ 3.4	4.5	△ 3.3	△ 7.9
診断結果等の報告状況について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
報告書が届くまでの時間	88.4	89.8	1.4	84.1	77.8	△ 6.3	△ 4.3	△ 12.1	△ 7.7
報告書の内容・わかりやすさ	95.7	91.5	△ 4.1	94.2	88.7	△ 5.5	△ 1.4	△ 2.8	△ 1.4
紹介患者さんの最終報告	88.4	75.0	△ 13.4	89.9	77.4	△ 12.4	1.4	2.4	1.0
開業されている先生方との症例検討会	9.4	13.2	3.8	24.2	24.5	0.2	14.9	11.3	△ 3.6
診療時間帯について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
診療時間帯、診療日等	62.3	59.6	△ 2.7	75.0	60.0	△ 15.0	12.7	0.4	△ 12.3
緊急時・時間外のシステムについて	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
受け入れ体制	87.0	72.9	△ 14.1	89.9	62.3	△ 27.6	2.9	△ 10.6	△ 13.5
担当者の対応、言葉遣い等	69.6	75.0	5.4	75.0	59.0	△ 16.0	5.4	△ 16.0	△ 21.4
逆紹介について	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)	重視度(%)	満足度(%)	乖離(P)
紹介患者さんの逆紹介について	62.3	70.7	8.4	74.2	65.5	△ 8.7	11.9	△ 5.2	△ 17.1
全体的な評価 (有用度)	68.7%			64.3%					

「乖離」とは重視度と満足度の乖離値で、△の数値が大きいほど改善が必要な項目となります。

重視度に対し満足度が低い項目の改善を図り、地域医療機関の先生方に満足していただける病病・病診・介護連携にサービスに努めてまいります。

転倒転落・筋力低下予防体操

中央リハビリテーション部長 大西 匡将

転倒転落を予防するためには日ごろから栄養と活動性の確保が必要不可欠です。
今回は家で一人でも出来る簡単な体操をいくつかご紹介します。

座っておこなう運動

ふともも上げ運動

- 息を吐きながら太ももを真上にあげて5秒とめる

- ゆっくり息を吐きながら太ももを真上にあげて5秒間止める
- 鍛えられる主な筋肉は腸腰筋



ひざ伸ばし運動

- 息を吐きながらひざをまっすぐ伸ばし5秒止める

- ゆっくり息を吐きながら膝をまっすぐ伸ばして5秒間止める
- 鍛えられる主な筋肉は大腿四頭筋



立って行う運動

立ち上がり運動

- 足を少し手前に引き、息を吐きながら立ち上がる
- 息を吸いながら座る



- ①両足を肩幅に開いて膝を曲げて足を後ろに引く
 - ②両手を太もものにのせる
 - ③お辞儀をして少し前かがみになる
 - ④ゆっくり息を吐きながら立ち上がる
 - ⑤ゆっくり息を吐きながらお辞儀をして座る
- ※脚の力が弱い場合は手でふとももや椅子を押したり手すりを引っ張ったりしても良い
- 鍛えられる主な筋肉は腹筋・脊柱起立筋・大腿四頭筋・ハムストリングス・腸腰筋・大殿筋・中殿筋・股関節内転筋群・前脛骨筋・下腿三頭筋

【体操時の注意点】

- 息を止めないでゆっくりと息を吐きながら行うこと（血圧上昇防止）
- 反動をつけないでゆっくり行うこと（筋収縮を意識させるため）
- 立って行う運動の際には転倒に注意すること
- 運動実施後に関節痛や筋肉痛が強く出る場合には回数や止める時間を短くすること



宗教上の理由による 輸血拒否される患者さんへ

本院では「相対的無輸血」の方針で対応しております。

「相対的無輸血」とは、患者さんの意思を尊重して可能な限り無輸血治療に努力しますが、「輸血以外に救命手段がない」事態に至った時には輸血を行うという立場・考え方です。

※詳細につきましては当院のホームページをご覧ください。

病院ボランティア募集

当院では、患者さんがより良い環境の下で安心して治療を受けることができるように病院ボランティアを募集しております。ご興味のある方ご応募お待ちしております。

多くの方からのご連絡をお待ちしております。

活動内容

- 外来患者さんのエスコート（車椅子が必要な患者さんの介助）
- 入院患者さんの病棟までのご案内
- 各診療科へのご案内
- 初診窓口案内、再来受付機での受付案内（端末操作の補助）

活動日時

- 応相談

参加条件

- 年齢や性別問いません

問い合わせ先(総務課) 電話:0859-33-8181



●2024年1月発行 ●ご意見等ございましたらお気軽にお問い合わせください E-mail:toiawase@saninh.johas.go.jp

問い合わせ先：山陰労災病院総務課

〒683-8605 鳥取県米子市皆生新田1丁目8番1号

TEL 0859-33-8181 FAX 0859-22-9651

ホームページ

さんいんろうさい

検索

